

様式3 実践事例

大崎町立大崎小学校 第6学年

【授業実践のポイント】

① 道徳的価値の理解を深めるために、同じ価値を年間通して90分間（1回目：心情中心型，2回目：価値中心型）で行った。
② 学び合いの目的を明確にし、それに合った学習形態や方法を選択した。

1 主題名 「終わりになきちょうせん」[A 希望と勇気，努力と強い意志]

(1) 教材名 「iPS細胞の向こうに」(日本文教出版「小学道徳生きる力」6年)

(2) 本時のねらい

山中さんのiPS細胞研究に対する姿勢から、より高い目標を立てて、それに向けてくじけずに希望と勇気をもって努力していこうとする態度を育てる。

2 授業の展開（価値中心型）

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
意識化・焦点化	1 今までの経験を振り返る。 2 めあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     本当の努力とは、どのようなものだろうか。                 </div>	5分	○ 自我関与しやすくするために、事前アンケート、前回の板書写真、児童の日記、運動会での出来事を用いて想起させる。 ○ 価値の深化を図るために、「本当の」を付ける。
追求・深化	3 挫折について、自分の経験と照らし合わせて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     自分の考えに自信をもたせる「学び合い」                 </div> 4 「成功＝完成ではない」という言葉から、自分の考えをまとめる。 T:この言葉について、みんなはどのように考えますか。 T:みんなだったら、この言葉をどんな意味で使いたいですか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     自分の考えが深まっていく「学び合い」                 </div>	28分	○ 考え、議論する時間を多く確保するために、資料は事前に読ませておき、内容の確認のみ行う。 ○ 児童が主体的に考えを整理したり、活発に意見交流や発表したりするために、ロイロノートを活用する。 ○ 効果的な学び合いを行うために、学び合いの明確な目的を児童に伝える。 ○ 山中さんが主語にならないよう、「私たちはこう考える」というイラストを黒板に掲示する。 ○ 考えの深まりを捉えるために、友達の考えで共感したところも発表させる。
自覚化・意欲化	5 自己を振り返り、心のカードを記入する。 6 教師の説話を聞く。	12分	○ それぞれが自由な表現で記述できるように、まとめは板書せず、本時の学びを振り返らせて記入させる。 ○ 記入後、意見を交流する。

【板書】



本学級の実態として、自分の意見を伝えることや発表することに抵抗のある児童が多いため、ロイロノートを活用して意見を交流したり、友達のよい考えを紹介したりしている。

〈ロイロノート〉



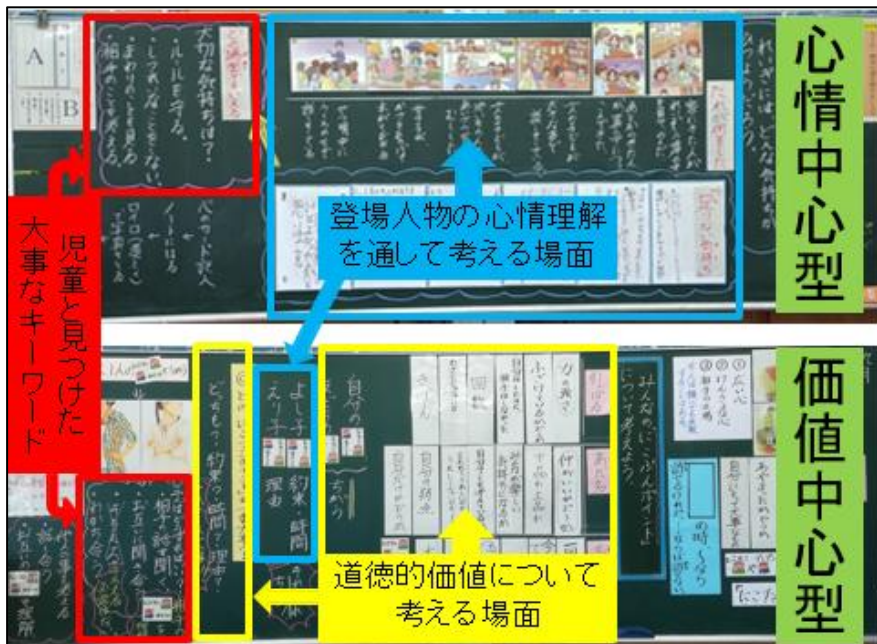
重点指導項目指導計画

主題名・教材名

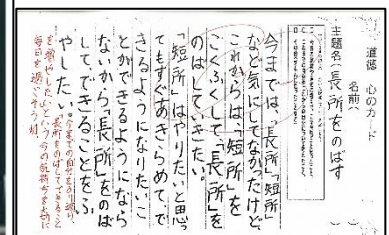
板書写真

心のカード

〈道徳コーナー〉



〈「心情中心型」と「価値中心型」の板書の違い〉



〈心のカード〉

3 実践を終えて

(1) 成果

- ア 授業モデルを2つ作成したことで、ねらいの明確な授業を展開できた。
- イ 他者の意見に触れる機会を多く設けたことで、考えの幅が広がった。

(2) 課題

児童の思考を揺さぶったり、発言を繋いだりしながら、より「考え、議論する」道徳の授業を目指していく必要がある。